

# 人権学習展開例

●主題名 共生社会の実現に向けて③

●教材名 心のバリアフリー

●人権学習の視点 個別的な視点「障害のある人の人権問題」

●主題・教材について

共生社会の実現には、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合う「心のバリアフリー」が不可欠である。施設設備や法制度などハード面を整えるとともに、意識やコミュニケーションといったソフト面でも改善を図り、一人一人が具体的な行動を起こし継続することが、誰もが暮らしやすい社会の形成につながることに気づかせたい。

●ねらい

障害のある人が抱える困難さや悩みを想像し共感しようとする態度を育てるとともに、障害のある人を支えたり手助けしたりするために具体的に行動する実践力を養う。

●関連する教材

人権学習資料集＜高等学校編＞ 「11 ともに生きる～共生社会の一員として～」

人権学習資料集＜中学校編Ⅱ＞ 「8 視覚障害者・聴覚障害者への合理的配慮はどうすればいい？」

人権学習資料集＜小学校編Ⅳ＞ 「10 「バリアフリー」について考えよう」

●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	<b>わかりやすい伝え方について考えよう</b>				
	○「わかりやすい伝え方」について説明する。	個別	○わかりやすく伝えるにはどうすればよいか考える。	○わかりやすく伝えるためのポイントを押さえる。この具体的なコミュニケーションの手法は、外国人や子どもなど様々な人にとってバリアフリーになりうることを伝える。	ワークシート⑥
展開	<b>障害の「社会モデル」と合理的配慮について考えよう</b>				
	○知的障害のある人の合理的配慮、障害の社会モデルについて考えさせる。  ○様々な行動をする人の例を示す。	個別	○ワークシート②に取り組む。 【知的障害のある人】  ○ワークシート⑧に取り組む。 【様々な行動をする人】	○配付資料④を参照させ、社会的障壁の「慣行」/情報のバリアの事例になることを伝える。  ○合理的配慮やバリアフリーがユニバーサルデザインにも通じていることに気づくよう促す。	ワークシート⑦⑧ 配付資料④ 「日常生活を妨げる4種類のバリア」

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	○どんなにより設備よりも、困っている人を理解しようとする姿勢が必要であることを伝える。			○時には「暖かく見守る」ことが障害のある人を支える具体的な行動になることもある。「障害」についての知識が適切な対応につながることを伝える。その際、障害についての知識があると、その人が抱えている困難さが想像しやすくなり、相互理解にもつながることを押さえる。  ○それぞれの障害についての知識や具体的な対応について配付資料④を参照させ「京都府障害のある人も～社会づくり条例」が施行された意義を認識させる。	配付資料③  配付資料④ 「京都府障害のある人も～社会づくり条例」
まとめ	○本時のまとめをする。	個別	○授業での新たな気づきや意識の変化について振り返る。		

### ●評価

- ・障害のある人が抱える困難さや悩みを想像し共感しようとする態度を育てることができたか。
- ・障害のある人を支えたり手助けしたりするために具体的に行動する実践力を養うことができたか。

### <参考資料>

- 知的障害者と共に働くあるあるガイドブック(京都府商工労働観光部総合就業支援室)
- 「やさしい日本語」の手引き～外国人に伝わる日本語～(愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室)